

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：計画、設計図書等の策定、解体・建設工事				指標の求め方：基本構想、基本計画、基本設計、実施設計、解体工事、建設工事の実施									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：砂川駅前地区施設前の歩行者通行数				指標の求め方：10月下旬～11月中旬で設定する平日1日に、砂川駅前地区の歩道西側において朝2h、昼過ぎ2h、夜2hの歩行者数をカウントする									
		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/)	計画値 1(基本設計)	2(実施設計、解体工事)	1(建設工事)		1(外構工事)									
	実績値	1	2												
指標	成果指標 1 (単位/人/日)	計画値				330	327	324		321	319	316	313		
	実績値														
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：成果指標である基本設計の策定が予定通りにでき、令和6年秋の供用開始に向け順調に事業推進できている。	自己分析：成果指標である実施設計の策定及び解体工事の完了が予定通りに進んだ。施設内の更なるバリアフリー化の推進を図るためR5年度に実施設計の追加設計を行うことになったが、令和7年4月供用開始に向け順調に事業推進できている。	自己分析：	判断理由：施設内の更なるバリアフリー化の推進を図るためR5年度に実施設計の追加設計を行うことにより、供用開始が令和6年秋から令和7年4月へ延期となるが、供用開始に向け概ね順調に事業推進できている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5：賑わい創出に寄与する施設を整備することで中心市街地の活性化を目指す本事業は重要な取組であるため「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						